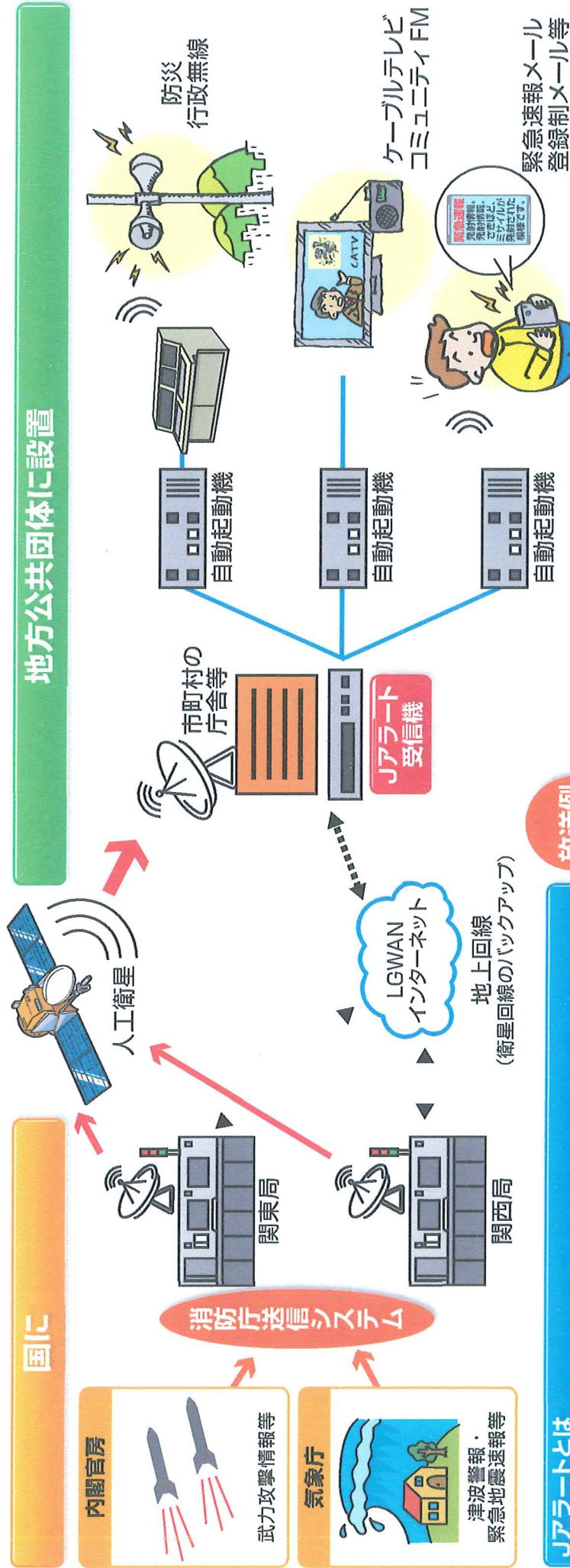


さまざまな情報伝達機器で瞬時に緊急情報を伝えるJアラート



地方公共団体に設置

放送例

ゲリラ攻撃情報
 警告音:ブーッ
 ゲリラ攻撃情報。ゲリラ攻撃の可能性があります。屋内に避難し、テレビ・ラジオをつけてください。

大津波警報
 警告音:ウーッウーッ
 大津波警報が発表されました。海岸付近の方は高台に避難して下さい。

緊急地震速報
 警告音:ピロンポロン
 緊急地震速報。大地震です。大地震です。

Jアラートとは
 弾道ミサイル情報、大津波警報、緊急地震速報等の緊急情報を、人工衛星を用いて国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、市区町村の防災行政無線や携帯メール、コミュニティFM等を自動起動させるもので、国から住民まで緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

整備状況 (消防庁調べ:平成24年6月1日現在)
 ほぼすべての地方公共団体がJアラートの受信機を整備
 (1730団体/1742団体(99.3%))
 受信した情報を人手を介さず自動的に住民へ伝達できる体制を整備
 (1217団体/1742団体(69.9%))

災害での活用事例
 ○東日本大震災で大津波警報をJアラートで受信し、防災行政無線から自動放送されたことで、スムーズに避難誘導が行われ、住民の命が救われた事例が見られた。
 ○平成24年12月、北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射情報と通過情報を、Jアラートを通じて瞬時に沖縄県内の住民に伝達した。

- Jアラートの特色

時間的に猶予のない緊急事態の発生を国民に伝え、迅速な避難行動を促すことを目的とする



瞬時性

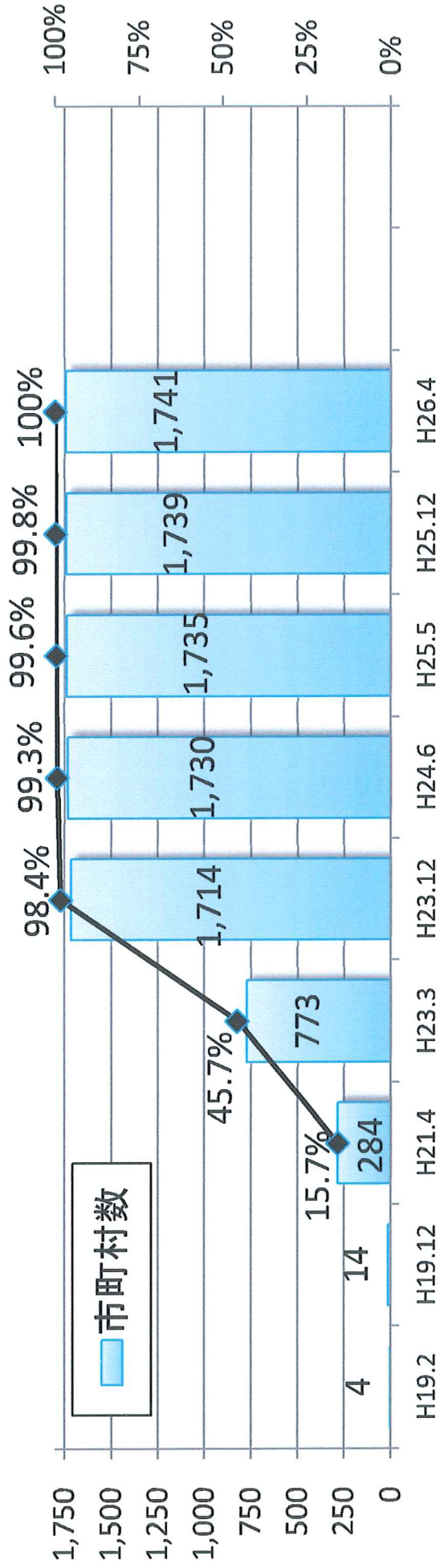
- 市町村防災行政無線等を自動的に起動させることで、地方公共団体職員の手を介さず、国から住民に直接情報を伝達。
- 休日・夜間など、地方公共団体の職員体制に関わらず住民に情報を伝達。

耐災害性

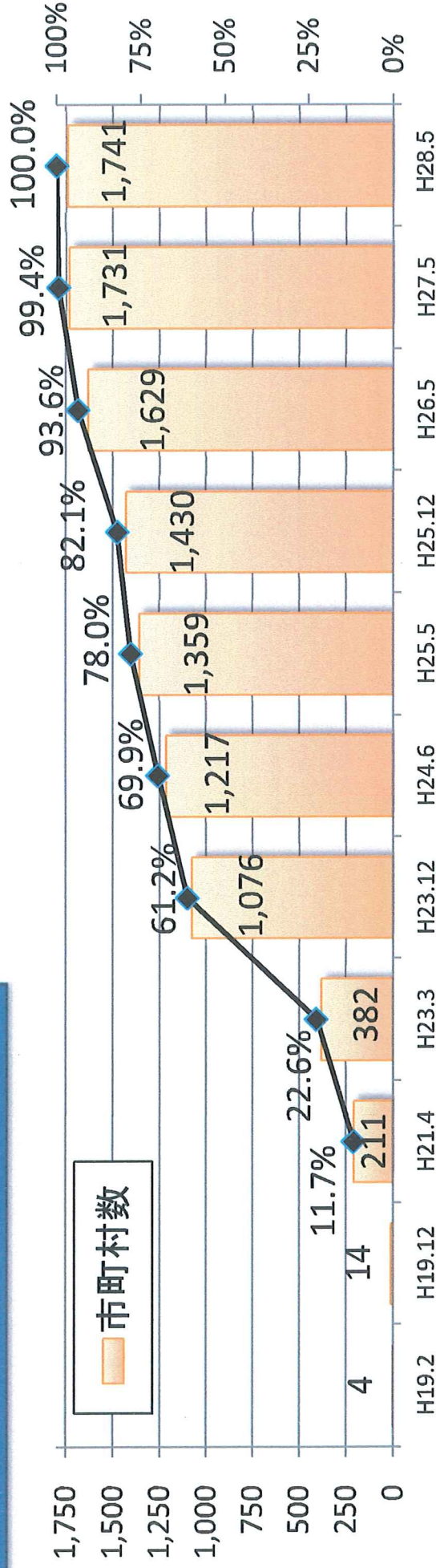
- 衛星回線と地上回線の2系統による情報受配信、送信・管理システムのバックアップ拠点を有する災害に強いシステム。

● Jアラートの整備状況

Jアラート受信機の整備状況



Jアラート自動起動装置※の整備状況



※ Jアラートによる情報を住民に伝える情報伝達手段を、職員の操作を介さず、起動させる機器又は仕組み。